

日時 令和7年6月12日（木）10:00～12:00

場所 平館高等学校 研修ホール

出席者 9名 A～M委員のうち4名（A・J・K・M）欠席

1 家庭クラブ研究紹介（家庭クラブ代表生徒3名）

「紫薫枕をつなぐ～地域資源を有効活用～」

令和6年度 第72回東北ブロック高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 優秀賞

2 辞令交付

3 校長挨拶

本日はお忙しい中お集まりくださいますとありがとうございます。おかげさまで昨年度は「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞することができました。会長様には本会を代表して表彰式に御参加いただき、賞状を受領いただきました。ありがとうございました。この表彰は本会の委員の皆様が本校生徒の地域での学びを後押ししていただいている実績に対する評価であり、実際に本校は皆様のおかげで「社会に開かれた教育課程」の実践をすすめられているものと大変感謝しております。今年度からは鈴木絵美委員が高校魅力化推進コーディネーターとして市から高校に配置していただき、総合的な探究の時間や家政科学科の学びにおいて御活躍いただいております。地域の皆様からもさまざまな学びに関する御提案あるいは御協力の申し出等があり、地域における学びは今後益々充実させていけるものと期待しております。

一方で著しい入学者の減というところは学校の存在そのものを脅かす大きな課題であり、今年度も皆様のお力をいただきながら学校の魅力化・特色化の推進、地域との協働活動、情報発信等に努めて参りたいと思います。また、今年度も八幡平市様の協力を得て「地域みらい留学」「いわて留学」による県外生徒の入学者獲得に取り組んで参ります。県外生の獲得は単純に本校で学んでほしい、八幡平市を味わってほしい、という願いもあるのですが、八幡平市の関係人口の増加、そして県外生の入学・活躍が地域の皆様や中学生・小学生、あるいは保護者の皆様への教育活動・実践のアピールになればいいという思いもございます。

先ほどごらんいただきました家庭クラブ研究発表で感じ頂けたかと思いますが、生徒はかなり頑張りそして成長しております。自己肯定感、やる気、地域貢献の意識といったいわゆる非認知能力の育成、生徒の「やりたい」「やりがい」を引き出す、平高だから見つかる、広がる。そういった思いを胸に我々教職員は教育活動に励んで参ります。引き続きの委員の皆様、また新規でお引き受けの委員の皆様におかれましては本会を通じて本校を多方面で支えていただきますようお願いもうしあげまして挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 委員自己紹介

5 協議・報告事項

議事・報告に先立ち会長・副会長の選出

互選により会長はI委員、副会長にD委員を選出

(1) 令和7年度平館高等学校学校運営協議会委員について

・資料のとおり承認された

(2) 平館高等学校学校運営協議会の基本方針について（案）

・資料のとおり承認された

(3) 令和7年度学校運営協議会の年間計画について（案）

・I：次回は10月2日（予定）。紫薫祭が10月18・19日とあるが私たちが参加できるのか？

副校長：一般参加、一般公開の19日日曜日の方になります。10月19日（日）が一般、学校公開がその翌週。近くなったら改めて御案内する。

・I：学校公開は28から30の3日間でいいですね。

副校長：一日中、好きな時間に来て、見れる。委員さんには個別に御案内するが、どの授業でもいい、部活の見学でもいい。第2回の運営協議会の時に詳しく説明する。

・C：20日は代休になるわけですか。

副校長：20・21日が代休になる。

C：復興支援チャリティーショーを無料で行うので、平高でも演奏してもらおうと思ったが20日代休ならしょうがないですね。

(4) 令和7年度学校運営の基本方針について

- ・学校経営計画・魅力化ビジョンについて校長から報告
- ・地域みらい留学について副校長から説明

・I：生徒の方からこんなやってみたいというのは何かあるのか？

校長：現在、生徒会員担当の方と連携し、校長室での昼食会を企画中。第2回会議の前までに、生徒とのセッションを実施し、意見交換の場を設けたいと考えている。また、部活動の在り方については、生徒自身が主体的に考える機会を作りたいという意向があり、検討を進めている。

・I：部活動、今は全員入らなくてもいいのか？本人の自由？割的にはどのくらいか？

校長：現在の3年生には部活動に所属していない生徒が2桁ほどいる。特に家政科学科の2・3年生は家庭クラブの活動が充実しており、忙しく活動している。また、委員会や生徒会、特に行事実行委員は複数の案件を並行して進めており、生徒は日々忙しく活動している。

・F：現在、生徒たちの間では組織的な人員不足が課題となっており、部活動や家庭クラブの活動において「やり方は変わらないのに人が減っている」という声が上がっている。一部の生徒は、現状を踏まえて「これからどうしていくか」を主体的に考えようとしている様子も見られる。また、部活動を単に増やすのではなく、地域と連携した活動や、放課後に地域のサークルに参加できるような仕組みがある学校が魅力的に映っている。そうした学校は、地域と協働している姿がオンライン説明会などでも見られ、中学生や保護者の関心を集めている。学校内でも、生徒の声に応じて登山部のような新しい活動が始まっており、柔軟な対応がされている。今後は、「負担にならず、できる人ができる場所で、どんな協働ができるか」を考え、第2回会議や熟議の準備を進めることで、より良い方向に向かう可能性がある。

・I：人数が多ければ多様なクラブ活動が可能だが、人数が限られると団体スポーツ（例：サッカーなど）の実施が難しくなる。一方で、個人で取り組めるスポーツや活動もあり、それを活かす方法を考えることが重要。たとえば、かつて自転車が好きで同級生が校長先生に自転車部の設立を願い出たが断られ、それでも毎日遠くから通学し、卒業後にS級の競輪選手になったという実例がある。現在も地元でスキー指導などをしており、個人の情熱が実を結ぶケースもある。こうした活動に対して、地域の人々が支援・指導者として関わる可能性もあり、地域との連携を通じて、生徒の個人活動を支える仕組みを考えることができる。

F：今年ソフトテニス、月曜日にコーチが一人、月曜日だけ来て地域の方が来てくれて対応してくださり、応援してくださるとありがたいと思っている。

・D：社会に貢献できる力を身につけるのですが、確か昨年の学校評価で奉仕活動とボランティアに関してすごく点数が低かったような感じがする。それに対しての具体的な対策は、今回何かありますか？

校長：自発的なボランティア活動は、うまく引き出せれば可能性があるが、そのためには「貢献できる場面の創出」と「活動の意義の明確化」が重要。副校長から各担任へ情報を流し、学年長は生徒に対して細かく伝えるよう努めている。生徒が「やる意義」を感じられるような働きかけをしていきたいという意向がある。

・D：アンケートでは「やらなかった」と答えた生徒が多かったため、何か行動のきっかけとなる具体的な活動例（例：お祭りへの参加、花苗の植え付けなど）を示してほしいと考えている。そうした具体例があることで、生徒がボランティアや地域活動に参加しやすくなることを期待している。

校長：前確か話聞いたとき、ボランティアとか結構やってるんだけど、それはボランティアじゃないと思っている生徒がいるっていうのもありました。

・I：「社会を明るくする運動」に関わっており、今後は高校に対して一日保護司などの協力を依頼したいと考えている。こうした活動も、非常に意義のある立派なボランティアであると捉えている。

・C：八幡平市の探究学習は高校生にとって非常に重要であり、将来を考える力を育む。この学びは中学生や小学生の段階から始めるとより効果的であり、中学校でも「自分たちの街をどうしたいか」「自分に何ができるか」といった主体的な課題学習を取り入れてほしい。そうすることで、中高の連携が生まれ、将来の地域の担い手育成にもつながると考えている。

B：現在は、災害防止の観点からJRC活動や岩手の復興教育を中心に取り組んでいる。将来のビジョンを描くような探究活動（例：市の未来像を考える）はまだ実施していないが、やろうと思えば多様な方向性があるという認識はある。

・C：自分の住むコミュニティについて考えることは大切で、将来何ができるか、何をすべきかに気づきき

かけになる。ボランティア活動などを通じて、主体性や気持ちが育つことが期待される。継続的な学びが重要であり、中学校でも八幡平市について学ぶ機会があると良い。防災などのテーマも含め、カリキュラムに無理なく取り入れる形で検討してほしい。

B：ボランティア活動は実施しているが、今後の取り組みについては「検討する」としか言えないのが現状。中学校も生徒も非常に多忙で、カリキュラムがすでに限界に近い状態。「あれもこれもやりたい」という思いはあるが、現状できることを精一杯やっているというのが正直なところ。

I：時間が足りないような感じになっていくような感じですよ。

E：校長先生を応援する立場として、小・中・高の先生方がキャリア教育の実践を発表する場があり、市の支援も受けながら取り組まれている。小学校では地域を知る学びや防災教育など、各校で工夫しながら実践されているが、先生方・生徒ともに非常に多忙な状況。学校間での情報共有や連携の雰囲気はあるものの、高校（平高）とのつながりはまだ薄いのが現状。

・ I：各学校でやってるけども、それが各学校で結びついてはいないという感じですね。今年、昨年？今年でしたか？議会に高校生が参加しているのはありましたね。

副校長：今年です。2月19日、市議会の開会日に合わせて、議会見学とハチタンのグループによる発表を実施。発表では、1～2年間かけて取り組んだ内容を議員に向けて紹介。生徒の中には、「自分たちのアイデアは実現にお金がかかるため、難しい」といった現実的な課題に気づく感想を持つ者もいた。

I：なんかすごくいいことを言った。私たちが言えないようなことも言っていた。今後も継続されるの？

副校長：現時点ではまだ具体化していないが、発表の場を広げて、議員だけでなく一般市民・企業・市職員など多くの人に成果を届けたいと考えている。そのために、どのような場面・場所が最適かをエミさんと相談しながら検討中。

F：昨年度は議会参加とハチタン発表の意図にズレがあったが、実施したことで生徒からは関わってくれた人への報告をしたいという声が出た。今年度は2年生中心に、生徒主体で報告会を企画・実施する方向で探究活動に取り組んでいる。議員や地域の方だけでなく、中学生にも聞いてもらえるような広くPRする報告会を目指している。

I：高校生にも選挙権が3年生の一部にはあるんですよ。

F：議会見学では事前学習や模擬体験がなく、議案審議を午前中ずっと見学する形だったため、やや準備不足を感じた。ただし、生徒からは「議場に入ったのは初めて」「真剣な議論を初めて見た」などの前向きな反応があり、学びにはなったと感じている。初めての試みとして、今後さらに改善されていくことを期待している。

校長：前年と、その前の年はもうちょっとカジュアルな感じでやっていた。

B：昨日の校長会議で、市教委から「市制20周年をきっかけに小学生議員の企画を実施する」との説明があった。まずは今年度、小学生を対象に各校から代表を選出し、「どのような八幡平市にしたいか」をテーマに活動する予定。将来的には中学生や高校生にも広げたい意向はあるが、負担を考慮し、市が主体的に指導を行う方針で、学校への過度な負担は避ける姿勢を示していた。この取り組みが良い機会になることを期待している。

・ I：ふるさとの魅力をとという点がありましたんで副校長の先生の方からちょっとふるさとの魅力を。

副校長の先生：家庭クラブ活動では、地域課題の解決を目指し、地域資源の活用（枕づくり・紫根染）を継続している。人員不足の課題はあるが、家庭科学科だけでなく学校全体で協力しながら活動の継続と見直しを進めている。生徒は年間約30項目の地域活動（小中学校訪問、植栽など）に取り組んでおり、郷土の魅力発信を使命と捉えている。ただし、活動が多く、生徒がボランティアと感じにくい面もあるため、今後は縮小しつつも継続していく方針。

・ L：「フェス in オンライン」に参加した生徒が、どんな特徴や興味を持って参加したのか、何を知らなかったのかについて、事前にしっかりリサーチされていたのが気になっている。

F：「地域みらい留学フェス in オンライン」は、全国の高校が参加する学校紹介イベントで、主催者側が事前に趣旨説明（地域みらい留学の目的や中学生へのメッセージ）を行う。生徒の参加理由は様々で（興味、推薦、地域への関心など）、各校が事前に個々の動機を把握するのは難しい。6月や9月にはテーマ別の説明会もあり、探究学習に関心のある中学生や保護者が全国から参加。説明後には個別相談の時間も設けられており、生徒が直接質問できる機会がある。

L：体験入学や説明会を通じて、生徒が平館高校に興味を持ち、マッチングする流れがある。その際、明るい未来を想像できるようなプレゼンや情報発信が重要で、口コミにもつながるため、事前のリサーチが大切だと感じた。

F：個別相談では詳しい対応も可能だが、オンライン参加者が何千人規模のため、参画校側が一人ひとりの

リサーチを行うのは難しいと感じている。

L：プラットフォームさんからなんかそういう情報提供みたいなものはないのですか？

F：今年から個人情報取得可能になったが、取得後の活用やアプローチが重要であり、学校側の積極的な対応が求められている。また、アパート支援（4万円）制度は継続中だが、他地域では地域サポーター制度などの支援体制が整っている例も多く、今後は地域ぐるみでのサポート体制の構築が必要だと市にも提案している。

L：他地域では、地域おこし協力隊が寮やシェアハウスの管理を担う事例があり、八幡平市でも過去に協力隊の活動実績があるため、地域創生予算を活用して協力隊を雇用・運営する仕組みは可能性があると考えている。

F：地域おこし協力隊を活用した寮の管理には実例もあるが、課題も多い。

生徒を見守るには、教育的・精神的なサポートが必要であり、地域の高齢者の生きがいや街づくりとの連携も重要な視点。

市からも協力隊の活用案は出ており、今後、熟議を重ねて最適な方法を探っていくことが望ましい。

I：一番大事な部分だと思います。

F：市外に出ている立場から、フェス in 東京で保護者との対話を通じて共通理解が深まる可能性を感じている。盛農高校のように寮があると理想的だが、事例によっては旅館を住居として活用するケースもあり、生活費・食費・共益費の一部（居住費 45,000 円）を市が 4 万円補助するなど、シェアハウスのような支援制度も存在している。

L：過去には、学生が寮を自らリノベーションし、地域の引退した大工などのボランティアと協力して旅館を学生寮に改修した事例があった。そうしたイベント的な要素を含む企画は、地域・生徒・関係者を巻き込みながら楽しく進められ、魅力的な取り組みになる可能性がある。みんなが「面白い」と思えるようなアイデアを出し合い、実現に向けて工夫していくことが大切。

E：3 日の日、親御さんとかはどんなテーマで入ってきたのですか？

F：説明後の質問タイムでは、寮の有無や生活に関する質問が多く、中学生からは「特産品は何ですか？」など地域に関する質問もあった。寮については「点呼はありますか？」「休日は外出できますか？」といった具体的な質問があり、寮の存在自体に関心を引いていた。保護者は特に生活基盤への関心が強く、学習内容についての質問はなかった。

I：わかりましたはそろそろC委員の時間がありますけれど。

- ・C：平館高校の存続には、学校・地域・行政の三者連携と魅力化が不可欠。いわて留学は特効薬ではないが、地域活性化のきっかけとなる重要な取り組み。寮や生活支援、体験入学の工夫など、地域ぐるみで高校生を育てる意識と行動が必要。今こそ、具体的な施策と連携を急ぐべき時期に来ている。

校長：皆さんから多くの支援を受けており、八幡平市の方々も学校に直接来て情報共有をしている。合併市町村という背景もあり、葛巻町とまったく同じ状況とは言えず、難しさもある。そうした課題も含めて、今後も共有しながら進めていきたい。

I：体験入学っていうのは7月30日あるとありました。中学校の校長先生校からそのあたり今年はどうのような状況でしょうか。

B：平高だけを特別に勧めることはできないが、生徒は地域に愛着がある。市や高校側からの働きかけで、2年生全員が体験入学に参加する仕組みがあればよいと考えている。ただし、日程が重なると生徒の負担が大きく、暑さによる体調不良の懸念もあるため、時期や方法には配慮が必要。

E：以前、他校の行事や文化祭と日程が重なってしまい、参加できなかったことがあった。参加してほしい気持ちはあるが、日程調整が課題。予約などの工夫が必要。

B：そこはお願いできればなあと。そうすると我々も本当に言いやすいかなって思いますけど。

F：さっき言っていた行政と高校側がしっかり連携しながらということがありますね。

I：これはちょっと改善の余地がありいい方向に行くかもしれませんね。

F：体験入学の際に、地域の魅力も一緒に伝えるツアー形式の取り組みが他地域で行われており、八幡平市でも参考になるかもしれない。高校だけでなく企業や地域を巡る企画を行政が支援することで、県外生の関心も高まる可能性がある。副校長先生とも、近隣高校を巡る案などを話し合ったが、予算面の課題もある。

I：校長先生、7月30日にしたっていうのは何か？

校長：これは避けて避けてこの日にしました。はい。その事例があったんで。一高・三高・北高・盛農を避けて設定した。

B：それを感じました。あまり被ってないなっていうのは。

F：でも、夏休み中になりますね

I：バスももしかすればどうですか

校長：昨年、高橋校長先生から秋の学校見学にバスを出す提案があったが、年度途中だったため中学校側の調整が難しく、実現できなかった。

B：秋の見学はカリキュラムの都合で難しく、夏休みなら対応しやすいと感じている。市や教育長も平高を推しているが、中学校側に負担をかけているのではと懸念もある。今度の「高校を知る会」では教育長が開会の場で地域との関わりを含めた話をする予定。ただ、八幡平市として平高に偏りすぎるのも、生徒にとっては複雑な思いがある。

(5) 令和7年度教育振興会事業計画・予算案について

- ・副校長から資料の説明
質問意見特になし

(6) 平館高等学校の状況について

- ・副校長から資料の説明
質問意見特になし

(7) 令和6年度平館高等学校外部講師実績一覧について

- ・副校長から資料の説明
質問意見特になし

(8) その他

- ・I：令和8年度、校長先生何人入学させる予定ですか。

校長：数値目標出しにくいですが、30は超えたいです。

- ・E：学校運営協議会の委員は現在13名で、要項では10～15名の範囲。商工会女性部のKさんが参加しており、ITに強い青年部前部長を委員として加えたい意向がある。Eと交代するか、定員を増やして加えることを検討してほしい。

校長：今年度は非常勤の県職員扱いのため、塚田さんを正式委員として迎えるのは難しいが、話し合いへの参加やつながりを持つことは可能。次年度以降、正式メンバーとして迎えることは検討できる。就業規則については確認が必要。

E：まあ、あの予備軍として「オブザーバーでてください」なら無報酬でもいいからとなればそれでもいいと思います。

F：2回目のテーマトークでは、委員だけでなく地域の方も交えて、生徒との対話の場を広げたい。小中学校の事例でも、委員以外の地域住民を含めた熟議が活発で、地域との連携が深まっている。前青年部長さんをはじめ、関わりたいという声も増えており、探究活動でも同窓生の協力が大きかった。そうした人々を交えた時間を設けることで、より広がりのある交流が期待できる。

I：次回の話し合いには、オブザーバーとして地域の方を参加させたい。推薦したい人がいれば、学校へ知らせしてほしい。

D：家庭クラブの発表は非常に良かったが、商品の価格が安すぎる。紫薫祭での販売だけでなく、ふるさと納税などで高価格で販売すれば収益が増え、市の補助金に加えて自分たちで活動資金を得ることも可能。原価を考えると、現状の価格設定ではもったいない。

F：もいり市で1500円で販売しようとしたが、原価や商業の観点から安すぎると指摘。価格を2000円に上げたところ、すぐに完売した。

D：売れるなら量産を考え、家政科以外の生徒も協力して作れば、盛り上がりにつながるかもしれない。

F：関わっている生徒の中には、もっと効率的にできると考える子もいれば、少し冷めた反応の子もいる。

石川：今回の目的は、あの船渡の山林火災のための義援金ということで、1万円は稼いだので、それでまずよしとした。

D：紫薫枕はとても良いので、もっと高く売るべき。良いものは安すぎると価値が伝わらず、高くても売れる。1万円でも納得できる品質の枕を作してほしい。

F：販売を本格化するには学校の会計面の調整が必要になる。他校の事例も参考にしながら、商業科のある県立高校などと連携し、平高に合った形を模索すべき。商工会のノウハウやアドバイスも活用することが重要。

E：ふるさと納税のいいのは即その枕（商品）を送らなくていい。6か月待ちにはできる。だから1ヶ月以内にやらなければどうするのかというのがない。要は受注生産。

石川：バッグも作っているが、それはポパイの家をお願いしている。

E：ふるさと納税は、全国に無料で情報発信できる仕組みです。

平高が特色ある取り組みをしているなら、この仕組みを活用して全国にアピールできます。

F：枕づくりでは、生産や使用素材を明確にし、地域と協力する形も考えられる。例えば家庭科室を地域に開放し、一部作業を手伝ってもらうなど。目標数を設定し、年間行事に合わせて計画を立てることで、生徒の負担も軽減できる。

D：枕の中身は3年に1回入れ替えるため、ミシン縫いでも問題ありません。手縫いにこだわらず、授業の一環として効率的に進めることができます。

I：ポパイさんの方で何かこうそういうので協力できるような部分もありますか。

石川：マイバッグってエコバッグの紫根染バージョン。こちらで材料を切ってそちらで製作して納品してもらっている。

I：枕は期限内に製作し、3年に1回のメンテナンスも有効。使い慣れると別のタイプが欲しくなることもあり、銀杏の葉や青森ヒバナなど、効果のある素材を混ぜるのも一案。紫薫枕の使用による成績向上などの効果も、データとして検証してみる価値がある。

F：学校運営協議会では、報告だけでなくテーマを決めて意見交換する場を設けるとよい。紫薫枕のような具体的な課題を取り上げ、地域と学校が協力して考えることで、より実りある会議になる。CSは決議の場ではなく、自由に意見を出し合う場であり、地域に課題を投げかけることも重要。

I：どんな会議に行ってもその他で出た意見っていうのがすごくいいものがあります。

E：会議日程が議会と重なり、行政との連携が難しくなる。年間行事は議会を避けて設定すべき。もっと早い日程なら参加しやすかった。

I：なるべく皆さんが出席できるような日付をとっていただければと思います。私は、山開きさえかさならなければ大丈夫です。

6 その他

Gさん、Hさんの方から感想を。

G：前任者に代わって今年初めて参加させていただきましたけど、どのような感じかは聞いてはいました。実際参加して頑張らなければならぬなあと身が引き締まる思いです。

H：初参加で留学制度や学力基準がよく分からず、質問しづらかった。人数を増やすだけでなく、学力とのバランスも重要ではないかと感じた。

副校長：地域みらいに取り組む学校では、地元では学力が高くない場合でも、活動内容に惹かれて進学する例がある。学力の高い生徒が入学した場合、授業を分ける必要があるのかという悩みもあるようだ。

I：今度行った時にそこらへんの話をしてくる予定？

F：聞かれた聞かれたら聞かれたら話そうっていうのは話しています。

I：ここはざっくばらんの話し合う場なのでいつでもどんどん言っていていいと思います。本日はありがとうございました。

校長：毎回の話し合いに感動しており、心から感謝している。日程調整が遅れたことは申し訳なく思っている。教育次長や関係者にも今回の様子を報告し、今後も連携を深めていきたい。ありがとうございました。